

多重エコー、guiding wire のアーチファクト等の所見の説明

IVUS は十分にフラッシュするとの注意

IVUS 所見

症例 1 : プラークリッチな病変

症例 2 : まず血流が全くない IVUS 所見である。Distal よりしばらく血流のない状態が  
続き血栓とおもわれる比較的高エコー輝度により内腔が占拠されており

血栓による閉塞と考えやすい所見である

(心房細動による血栓の飛来による冠動脈塞栓)

症例 3 : dissection

症例 4 : distal embolism

症例 5 : いわゆるファイブロスキャプ+リピットプールを認めプラーク破裂の所見

DCA dissection (順行性であり閉塞はしないであろう) stenting

症例 6 : RMI

壁在血栓、さまざまな血栓(新、旧)アルサレーションを伴い、新旧の血栓が溶けて後を  
認める。

POBA dissection 血腫

造影にて TIMI 0 distal より stenting recover

症例 7 : AMI Seg6 proximal-total

血栓吸引 IVUS catting ballon?

症例 8 : LAD